

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	コムスのほほえみ多治見
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	岐阜県多治見市太平町1-70-1
記入者名 (管理者)	佐藤 道代(ユニットリーダー)
記入日	平成 19年 5月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和楽」というホーム長の理念の下に「お客様もスタッフも毎日ゆとり、笑顔、充実感」を念頭にユニットごとの本年の理念を設けた。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼、夕礼時に出勤スタッフ全員で企業理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。常に理念を意識して言葉使い、態度に反映させている、また努めている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には訪問時、家族会等折に触れ伝えている。運営推進会議を定期的開催し、理念を理解していただくよう取り組んでいる。地域の福祉センターの行事に参加している。町内発信として、回覧板を活用したいと申し出ている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤時、退社時、散歩にでかけた時など挨拶をしている。お向かいの方にお雛様を戴いたので、毎年飾って招待している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。資源ごみ当番もしている。公民館まつり、児童館まつり、町内清掃等参加している。福祉センターの唱歌教室に参加している。お客様に希望を聞いて、参加教室を増やしたい。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	大学、高校、中学、専門学校等の見学・実習生を受け入れている。 町内一斉清掃にもお客様と一緒に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常に自己評価をするよう心がけている。また、外部評価の結果を職員全員が把握し、改善に努めるよう話し合いの場を設けている。 自己評価及び外部評価の実施により、原点に振り返り、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度開催し、前回での質問や検討事項の経過報告を行っている。 出席者が固定化してきているので、さらに多くの方に出席して頂き、更なる意見交換を行いサービスの向上を図りたい。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長が常に訪問し、交流を深めて、情報交換しサービスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会には積極的に参加するよう全職員に案内している。 今後に備え、常に視野に入れておくよう心がけている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム長が「身体拘束廃止推進員研修」修了者である。 折にふれ、勉強会を行っている。言葉使いなどにも注意している。 高齢者虐待防止関連法についての冊子を事務室に置き、常に意識するよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な時間をとり、ご家族が納得されるまで説明をしている。契約の改訂などの際にも十分な説明を行い、理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見は受け入れて介護計画に組み込むようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりや健康状態についてはその都度報告している。また金銭管理に関しては毎月報告し、一時的出費に関してはその都度連絡し、了承を得ている。不定期だがホームたよりを発行している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月の介護計画作成に当たり、ご家族の意見を伺い、職員に発表し話し合っ反映させている。ご意見箱を設け、いつでも受け付けている。また戴いたご意見は速やかに話し合い改善に設けている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のホーム会議で意見、提案を聞く機会を設け反映させている。また個別に相談しやすい関係を作るよう努力している。カンファレンス時にも意見、提案を聞いて反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>シフト作成には細心の注意を払っている。バス旅行や忘年会、新年会など大きな行事の時は人員を増やし、それぞれの要望に対応できるようにしている。あと1～2人増員できると、スタッフの急変にも余裕を持って対応できるので、スタッフ増員への取り組みを続けている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しいスタッフには若いスタッフが一緒にお客様に紹介し、できるだけ早くなじんでいただけるようキーポイントを伝えていく。新しいスタッフには導入研修を受けてもらい、統一したサービスができるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のホーム会議で管理者が受けた研修内容を報告し周知させている。 また内外の研修にも参加できるようシフト調整している。 各会議、研修の資料は常に回覧し、全員が目を通し確認印を押印している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会はないが、市・県の連絡協議会の研修等にホーム長が参加し、サービスの質の向上に努めている。 他事業者からお客様の紹介や相談を受けたりしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	健康診断の実施。(年1回、月4回以上の夜勤者は年2回) EAPセンターが利用できる(正社員)		喫煙者と非喫煙者を分けた休憩室の確保
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得のために資料を回覧したりシフトを調整したりしている。 職員評価表を活用し、向上心が持てるよう努めている。 職員評価票により運営者(本社)から個人に向けて何かしらの発信を求めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談でお宅を訪問し、本人が不安に思っていることなど具体時に聴き、理解に努めている。 本人から職員が受け入れられるまで話をよく聴くようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談等でお宅を訪問し、ご家族が求めていることを理解し、信頼関係ができるように話をよく聞くことを心がけている。 本人の見えないところで、家族の困っていることや要望など聴くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、状況等を確認し、他サービスを勧めることもある。 まず信頼関係ができるよう話を聞き、改善に向けて提案し相談している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上での入居となる場合もあるが、そうでない場合もあるので、なじみの家具や食器等を持ち込んでいただき、職員もできるだけ早く不安を取り除けるよう話相手となり努力している。 できるだけ本人が納得して入居できるよう時間をかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩という思いを常に抱いている。 食事の準備や畑仕事など得意とされている場面で活躍していただき、学ばせていただいている。 生活を共有し、お互いを必要とする関係になれるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に、共に本人を支えていけるよう情報の交換を大切にしている。 エピソードを報告し、信頼関係を深める手口としている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	より良い関係が築け、ご家族が安心していただけるよう、日頃の状態を報告している。場合によっては相談し、解決に努めている。 ギクシャクしていた親子関係が、ご入居により本人の精神状態が安定し、改善されてきたケースもある。 本人の得意なことが、ご入居によりご家族にも初めてわかったこともあり、喜んでいただけたケースもある。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際の場所や人にお会いできる事は少ないが、そのことを話題にしたりしている。手紙を書かれる方もあるので、お手伝いしている。 オリジナルデーを設け、本人の行きたいところに行けるよう支援を開始した。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆で楽しめるゲームや体操をしたり、歌を歌ったりしている。 また、役割を持つことで自信を持って生活していただいている。 職員が間に入り、お客様同士が同じ仕事をしたり話をするなどで、より良い関係ができるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご退去後、ハガキや年賀状を送っていただいたことがある。今のところご退去後も継続的な関わりを必要とされているお客様はみえない。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、話を聞いたり、問いかけに答えていただいたりしながら、把握に努めている。得た情報はスタッフ全員で共有できるように月一回以上のカンファレンスを行い、センター方式に取り入れている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人やご家族から聞ける範囲内で伺っている。また、入居後も行事や小さな出来事などをきっかけに把握に努めている。センター方式の書式を利用し、把握に努めている。また職員全員が情報を共有するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の生活リズムの理解に努め、現有能力の維持に努めている。		お客様間で仕事の奪い合いにならないよう配慮しながら、もっとできることを積極的にやっていただけるよう努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見を聞き、カンファレンス、モニタリングを行っている。時にはご家族にカンファレンスに参加していただいている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度見直しをしている。また、緊急時にはご家族に連絡をとり、緊急カンファレンスを行い、新たな計画を立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	すべて個別に記録している。 特記事項に関しては管理日誌にも記録し、勤務時間前に必ず確認するようにしている。 また、朝と夕に申し送りもしている。 個別記録を基に介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携医による2週に1度の往診日を設けている。また必要に応じ提携医の指示を受けている。 通院の場合も本人や家族の希望に応じて介助をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くにある福祉センターの文化講座を本人の希望により受講している。 また、ボランティアの協力を受けている。 本人の希望があっても、適当なボランティアや講座が見つからないので捜している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容師を活用している。		社会福祉センターのデイサービスと合同レクリエーションを企画、実施したことがあるが、回数を重ねたいと思う。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、協力を得ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望通りのかかりつけ医としている。受診はご家族対応であったり、ご家族の希望に応じてスタッフが対応している。 往診時、本人が医師に症状を伝えたり、場合によっては本人に代わって職員が症状を伝えて適切な医療を受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医が脳外科医である為、往診時や必要に応じてその都度相談している。		ご家族にも往診日に一緒に医師の診断を聞いていただいて、より深い協力体制をとりたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医に訪問看護師の紹介を依頼している最中である。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には介護サマリーを医療機関に提出し、できるだけ職員がお見舞いをするよう心がけている。また、ご家族とも情報交換に努めできるだけ早く退院できるよう支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在そのような方はみえないが、ご家族には、契約の際に説明し、理解いただいている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、終末期の方はみえないが、3ヵ月後のお客様の様子を想定しながら、日々のケアに取り組んでいる。センター方式に則り、終末期の迎え方等ご本人やご家族に希望を聞いている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際には、ご家族よりできるだけ多くの情報を伺えるようアセスメントに力を入れている。また、他事業所に移られる場合、できる限りの情報提供を行い、ダメージが少しでも軽減できるよう努めている。信頼関係を更に深め、より多くの情報が得られるように今まで以上に努めたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ誘導の声かけなど本人を傷つけないよう配慮している。また個人情報の取り扱いにはPマークを取得し、十分注意している。</p> <p>一人でも多くの高齢者の尊厳と自立を守るという企業理念に基づいて、介護職務に取り組んでいる。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>飲み物1つでも本人が選択できるよう声かけ支援している。本人が遠慮なく全ての職員に希望を表せるよう言葉使いや態度を今まで以上に徹底していきたい。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望を優先できるような声かけをするよう努めている。</p>	<p>本人が受け身の過ごし方をされることが多いので、もっと希望を言っていただけよう環境整備に努めたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>更衣は本人が決めて行っている。決められない方や季節に合わない物を選択された場合は、さりげなく声をかけるようにしている。</p> <p>外出時は少しお化粧をしたりしている。</p> <p>スタッフと一緒に買い物に出かけ、自己決定を支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お客様と一緒に畑で野菜やイチゴを収穫し、メニューも相談している。</p> <p>「何でもいいわ」と言われることが多いが、二者択一にしてみると返事のあることが多い。</p> <p>夕食の準備、片付けも一緒にしている。</p> <p>時に外食にも出かけている。</p> <p>オリジナルデーを活用し、外食、買い物等を設けている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつについては希望があれば、それに応じられるようにしている。</p> <p>飲み物も本人の希望するものとしている。ビールを飲まれる方が1名みえるが、冷蔵庫に預かり、希望時お渡ししている。</p> <p>ホーム内喫茶としてメニュー表を作り、お客様に好きな物をオーダーしていただいたりしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見計らってトイレ誘導し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。 リハビリを使用してみえた方にも日中は下着にパッドのみとして支援している。 排泄パターンを把握し、オムツ0'に向けて支援していきたい。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調により午前中に入浴したり、できるだけ本人の希望に合わせて入浴できるようにしている。 毎日入浴する方もあるが、入浴拒否の続く方には足浴や蒸しタオル等声かけし支援している。 入浴拒否の続く方への対応についてスタッフが意見を出し、それぞれ順に試みている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事也希望されれば居室内にて摂っていただいている。 眠れない時は静かな音楽を流したり、温かい飲み物を飲んでいただいている。 できるだけ薬に頼らないよう主治医と相談して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、洗濯物を干したりたたんだり、食器拭き、掃除、買い物袋を玄関からキッチンまで運んだりそれぞれの得意とされることを声かけしてお願いし、感謝の気持ちを伝えている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本社工場方針で、常時はお金は所持してみえないが、買い物時やお出かけした時には財布を持参し、できる方には自己にて支払いをしていただくようにしている。		もう少し買い物の回数を増やし、満足感が得られるよう支援したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	概ね2ヶ月に1度オリジナルデーとして、ホーム長または職員と本人の希望するところにマンツーマンで出かけたりする日を設けている。		オリジナルデーの強化。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2回、皆で行きたい所を選びJRや貸切バスを利用して出かけている。ご家族の参加もその都度、募っている。また忘年会等としてバスに乗って出かけている。 個別にはご家族と出かけられるよう協力を依頼することもある。 今年よりオリジナルデーを設けて、ホーム長とお客個人あるいは気の合う複数のお客様と希望される所へ出かけられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時、電話をかけている。 また、年賀状や手紙の日などを設けて支援している。 家族から手紙やハガキも来ている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	概ね9時～21時の間なら、いつでも都合の良い時に訪問していただけるようにしている。 また訪問時には居室でもリビングや和室でもお好きなところで過ごしていただけるようしている。 家族会を設け、普段あまり面会にみえないご家族にも訪問の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内会議にて徹底している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、リビングの出入り口も日中は常に鍵をかけていない。 お客様が自由に出入りできるようにしている。 お客様の状態が変わっても、鍵をかけることなくケアする事を心がけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認をさりげなくして、居室にみえる際は日中なら30分に1度、夜間は2時間に1度、様子を伺うようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて注意の必要な物品の取り扱いには気をつけている。 洗剤など自己にて洗濯される方には声かけ、見守りしている。 ハサミ、カッター、爪切り等についても常に見守りの中使用していただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険予測をして、ケアにあたるようスタッフの意識を高める為、勉強会やカンファレンスを行っている。 全てのスタッフが日々危険予測をしてケアに当たるよう声かけをする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	概ね2年に1度、普通救命講習を全スタッフが受講している。事故発生時の対応マニュアルが掲示してある。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を実施。消防署の指導を受けている。運営推進会議などで地域で協力を得られるようお話ししている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度ご家族に連絡し相談している。時には提携医にも相談し、指示を受けている。リスクについても常に3ヵ月後を想定するように心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	病歴を把握し、また常に様子観察に努めている。気づいた際には提携医や家族に連絡、相談し対応している。バイタルチェックを朝、入浴前に毎日行い、目安としている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも全職員が見られるようにしている。また処方薬に変化のあった場合はその都度、管理日誌に記入し、全職員が確認し押印している。全ての職員の自己意識を高められるように心がけている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	種類や形を変えて水分1日1300cc以上摂取に努めている。また、散歩や体操など体を動かすようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけをしている。1人ではできない方にはお手伝いをしている。夕食後には義歯を預かり、洗浄剤に浸けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好品を把握している。 本社の管理栄養士の立てた献立とレシピが毎月送られてくるので、それを利用することもある。 毎日、水分・食事の摂取量を記録し、1日の必要量が確保できるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めがあり、徹底的に実行している。 うがい、手洗い、消毒等。 その都度マニュアルが本社より送られてくるので、準じて実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん、まな板は毎日消毒している。 賞味期限を厳守し、こまめな買い物で新鮮な食材使用に努めている。 マニュアル通り衛生管理を行い、調理者は点検表にサインをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花を飾ったり、目印となるよう会社ののぼりを立てている。 駐車場を完備している。 玄関や建物周囲の清掃には気を配っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、過度な温度設定をしないようにしている。 カーテン等もお客様が自由に開けたり閉めたりしている。 家庭的な雰囲気が出せるように備品はあたたかみのある物にするようにしている。 また玄関は腰板とし、白一色にならないようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に畳の部屋があり、気ままに過ごせるようにしている。 リクライニングシートを和室に置き、本や雑誌を見たり、音楽を聴いたりできるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は作りつけのクローゼット以外は全てご本人が持ち込まれた家具である。ご飯茶碗やお箸も使い慣れた物を持参して頂き、使用している。 寝具は状態の変化に応じてご家族や本人と相談し、より快適に過ごせるよう支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングはもちろん各居室に換気扇があり、天気の良い日は窓を開けたりして換気に努めている。 温度調節もこまめに行っている。 夜間の温度調節もこまめに行ってる。 また冬場は加湿器や濡れタオルなどを利用して加湿にも努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はすべてバリアフリーとなつている。要所要所に手すりを設けている。また浴室には全身シャワーを設けている。 機能低下により、需要の変化には速やかに対応できるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事作りや掃除、トイレ誘導などケアプランに取り入れて、それぞれの能力に応じて対応できるよう工夫している。 センター方式を活用しながら、ケア向上に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキでの食事や日向ぼっこ、草取り、畑での野菜の収穫など活用している。		お客様が庭の花を自由に摘んで来て花びんに活けたりできるような環境に整えていきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・できるだけ多く外出できるようにしている(散歩、喫茶店、外食、バス旅行など)
- ・ボランティアとスタッフによる大正琴とクラリネットの演奏に合わせて歌詞カードをみながら歌う機会を月に1度設けている。